

No.94

さいばい ニュース

公益財団法人
神奈川県栽培漁業協会
 発行所 〒238-0237
 神奈川県三浦市三崎町
 城ヶ島養老子
 ☎ 046(882)6980
 FAX 046(881)2233

平成24年度収入予算

科目	24年度	23年度
基本財産	9,870	10,640
賛助会費	1,000	1,000
種苗生産	53,970	49,003
種苗斡旋	29,977	32,233
広域資源	3,465	3,530
緊急雇用	0	7,061
負担金	12,992	9,712
遊漁船協力	10,865	11,126
マダイ等協力金	5,000	6,000
雑収入	250	250
収入計	127,889	134,905

平成24年度支出予算

科目	24年度	23年度
マダイ資源増大	20,990	23,780
ヒラメ資源増大	4,919	5,230
栽培推進	2,922	2,966
種苗生産	43,299	42,041
種苗斡旋	23,092	29,081
管理費	22,173	17,134
借入金返済等	10,494	7,375
支出計	127,889	134,905

マダイ・ヒラメ資源増大促進事業

放流場所	マダイ(全長60mm)	ヒラメ(全長60mm)
東京湾海域	250,000	20,000
三浦半島西岸域	250,000	20,000
西湘域	200,000	30,000
合計	700,000	70,000



漁業者の要望の強い
ヒラメ種苗を供給・放流



イベントに協力し
マダイ種苗を放流

当協会の運営は、県補助金の削減及び漁業経営の不振と遊漁者数の減少等から主な収入源である漁業者負担金と遊漁船業者等協力金は減少傾向で種苗供給数も種苗を購入していた財団法人の株式会社や一般法人への移行で、厳しさを増しています。事業の執行については、徹底した経費の見直しを行い、効率的な協会運営に努めます。

今年度もマダイ、アワビ、トコブシ、クロダイ、マコガレイの種苗を生産して、東京湾並びに相模湾へ放流し、漁業協同組合をはじめとする水産団体への供給を行います。さらに、業界から強い要望のあるヒラメなどの種苗の供給を行います。

また、栽培漁業と当協会の活動についての理解

マダイ・アワビなどを種苗生産・放流 ヒラメなどの種苗は入手・放流へ

平成二十四年度 事業計画

神奈川県栽培漁業協会は、平成二十四年四月一日から財団法人から公益財団法人に移行しました。平成二十四年三月二十三日に神奈川県公益認定委員会の答申に基づき、公益財団法人としての神奈川県知事の認定許可が出されました。

公益財団法人の利点は、不特定多数の受益者に対する事業の比率が五十パーセント以上であれば、消費税を除き、法人税などの税金が掛りません。

種苗供給事業

種苗名(サイズmm)	24年度計画(尾)	23年度実績(尾)
ヒラメ (60)	140,000	144,500
メバル (60)	20,000	20,000
カサゴ (60)	130,000	134,000
トラフグ (50)	25,000	24,150
カワハギ (50)	11,000	11,000

種苗生産事業

種苗名(サイズmm)	24年度計画	23年度実績
アワビ (5)	30,000	30,000
アワビ (25)	350,000	389,480
アワビ (30)	75,000	75,700
ササエ (20)	200,000	183,600
トコブシ (15)	150,000	28,000
マダイ (70)	60,000	56,200
クロダイ (60)	90,000	90,000
マコガレイ (40)	16,000	70,500

神奈川県栽培漁業協会経営改善計画案 マダイ種苗生産・放流数変更の考え方

神奈川県におけるマダイ種苗放流目標は、2010年度までは神奈川県栽培漁業基本計画に基づき100万尾としてきた。補助金の中止に伴って、2011年度は30万尾を削減し70万尾にしてきました。

しかし、それでもマダイ種苗生産経費と収入の収支が大きく開いていて、今後、収支相償を図るため、放流数をどのようにしていくか、選択肢を提示します。

提案1

2012年度のマダイ種苗放流数は、2011年度に引き続き70万尾とします。

2013年度以降は、栽培漁業協会の種苗放流事業として、前年度の漁業者・漁業協同組合負担金及び遊漁船協力金の決められた割合をマダイ種苗生産に充てます。

また、前年度のマダイ遊漁者・遊漁船協力金を全額マダイ種苗生産費に充て、これらを合わせた金額相当の尾数を各地区に放流します。

試算では栽培漁業協会の種苗放流事業と

平成25年度以降のマダイ放流計画案

海域/年度	2010	2011	2012	2013(平成25年度)以降
東京湾	350,000	250,000	250,000	*100,000 +前年度マダイ遊漁協力金 +組合等種苗購入分
三浦半島西岸	350,000	250,000	250,000	*100,000+上記に同じ
湘南・西湘	300,000	200,000	200,000	*100,000+上記に同じ
合計	1,000,000	700,000	700,000	*100,000+上記に同じ

2013年度以降、各海域に放流する100,000尾分は、漁業者・業協同組合負担金及び遊漁船協力金による放流分

して12,000千円を基本放流額とします。これは、300,000尾に相当します。

東京湾100,000尾、三浦半島西岸100,000尾、西湘・湘南100,000尾とします。基本財産、漁業者・漁協負担金、遊漁船協力金の額は前年度の実績とします。

また、現在のマダイ釣人・釣船協力金は寄附金額に応じて放流数を変更します。

高いところに逃げることで「す」とアドバイスし、東日本大震災前の宮城県の水産業や宮城県漁協の概要、震災による被害状況、復興基本方針を立てたことを紹介しました。そして「宮城県の漁業者は海に戻りたいという気持ちの日ごとに強まっています。漁業を復興させて安全・安心な魚を供給したい」と結びました。

波対策は「早く、遠く、高いところに逃げることで」とアドバイスし、東日本大震災前の宮城県の水産業や宮城県漁協の概要、震災による被害状況、復興基本方針を立てたことを紹介しました。そして「宮城県の漁業者は海に戻りたいという気持ちの日ごとに強まっています。漁業を復興させて安全・安心な魚を供給したい」と結びました。

公益財団法人の運営は、従来の財団法人と比較すると次の点で異なります。

①財団法人の理事、評議員の人数は、書名表決がでなくなりましたので、減らしました。

理事は十五名から七名、十三名、評議員は、二十五名から七名、十三名、監事は三名から二名となります。

従来は、県、市町の理事、評議員がいましたが、新法人では入っていません。

②そこで、栽培漁業協会の運営内容を知っている

③任期は、財団法人では理事、評議員、監事は三年でしたが、公益財団法人では、理事が二年、評議員、監事が四年となります。

ただし、県と各市町と理事、評議員が出ている漁業協同組合で構成する神奈川県栽培漁業推進協議会を年一回開催します。

③任期は、財団法人では、まず、理事会を開き、議案を議決したあと、評議員に示し、二週間後に評議員会を開催します。

詳しい内容については、神奈川県栽培漁業協会のホームページにある定款をご覧ください。



神奈川 県水産振 興促進協 会は四月 二十六日 に横浜の 中小企業 共済会館で「漁 業地域における 震災対策研修 会」を開催し ました。関係者65人が出席、水産課漁港グループの小野能康技幹による津波浸水予想図の正しい見方・使い方の説明聞き、JFみやぎの船渡隆平専務の「漁業地域で何が起きたのか、今、何をなすべきか」をテーマの講演(写真)を聴きました。高橋征人会長が「本日の講演を聴き、地元の人に震災対策を伝えてほしい」とあいさつ、小野技幹が津波の伝わり方・大きくなるメカニズム、避難体制の整備について新たな津波浸水予想図を作ったことなどを説明しました。船渡専務は、津波対策は「早く、遠く、高いところに逃げることで」とアドバイスし、東日本大震災前の宮城県の水産業や宮城県漁協の概要、震災による被害状況、復興基本方針を立てたことを紹介しました。そして「宮城県の漁業者は海に戻りたいという気持ちの日ごとに強まっています。漁業を復興させて安全・安心な魚を供給したい」と結びました。



神奈川 県水産振 興促進協 会は四月 二十六日 に横浜の 中小企業 共済会館で「漁 業地域における 震災対策研修 会」を開催し ました。関係者65人が出席、水産課漁港グループの小野能康技幹による津波浸水予想図の正しい見方・使い方の説明聞き、JFみやぎの船渡隆平専務の「漁業地域で何が起きたのか、今、何をなすべきか」をテーマの講演(写真)を聴きました。高橋征人会長が「本日の講演を聴き、地元の人に震災対策を伝えてほしい」とあいさつ、小野技幹が津波の伝わり方・大きくなるメカニズム、避難体制の整備について新たな津波浸水予想図を作ったことなどを説明しました。船渡専務は、津波対策は「早く、遠く、高いところに逃げることで」とアドバイスし、東日本大震災前の宮城県の水産業や宮城県漁協の概要、震災による被害状況、復興基本方針を立てたことを紹介しました。そして「宮城県の漁業者は海に戻りたいという気持ちの日ごとに強まっています。漁業を復興させて安全・安心な魚を供給したい」と結びました。

平成二十三年度収支計算書

事業活動収入合計は億三千円余りに

平成二十三年度の財団法人神奈川県栽培漁業協会の決算を収支計算書によって報告します。平成二十三年度の事業活動収入の計は一億三千五百二十六万三千円でした。

その内訳は、基本財産運用収入が一億七千七百四十四万六千円、賛助会員会費が八十四万六千円、アワビの種苗生産やヒラメの種苗生産などの事業が八百二十九万三千円、緊急雇用や太平洋海域栽培漁業推進協議会のヒラメ種苗補助金が一千四百七十九万九千円、漁業者や漁業

協同組合の負担金が一億二千九百九十九万九千九百九十九円、遊漁船業者協力金が一千八百八十六万六千円、マダイ協力金が七百四十三万九千九百九十九円、アワビの種苗生産事業費が四千九百三十五万六千円、ヒラメやカササギなどの種苗生産事業費が二千八百八十七万八千円、管理費が千六百七十二万五千円でした。

貸借対照表および正味財産増減計算書を確認したいときはホームページhttp://www.kanagawa-sai.or.jpをご覧ください。

二十四年度 神奈川県水産課

主要施策・当初予算説明会

神奈川県水産課は四月十七日に平成二十四年度主要施策および当初予算説明会を開催しました。漁



神奈川県主要施策・予算説明会

業系統団体幹部、市町の担当職員ら七十五人が出席し、県の各担当職員から取り組む事業などについて説明を受けました。冒頭、鶴飼俊行水産課長は「県の財政事情は非常に厳しいが、行政・研究・指導部門が一丸となり県下水産振興のための施策に取り組めます」とあいさつしました。

また、当協会の今井利為専務は「マダイ栽培漁業の現状と課題」について説明しました。

四月一日付け 神奈川県人事異動 水産課・水産技術センターの主な人事異動は次の通り。カッコ内は前職です。(敬称略)

土地水資源対策課リーダー(加藤誠一)▽水産環境部主任研究員(水産課水産指導主査)山本貴一▽栽培技術部主任研究員(資源環境部主任研究員)岡部久▽相模湾試験場主任研究員(内水面試験場主任研究員)相澤康

平成二十三年度まで配布してきたアワビ種苗単価(消費税抜き)を平成二十四年度から電気料金の値上げなどで単価を改定せざるを得ない状況になりました(表)。

アワビ種苗単価値上げのお願い

Table with 3 columns: 殻長(mm), 旧単価(円), 新単価(円). Rows for 25, 30, and 50mm shell lengths.

関係漁業協同組合と組合員の皆さまのご理解を願ひ申し上げます。

「オイ、マグロ船ッ、日本で国、経済大国とかいってさ、白人の仲間になったつもりで、肩で風切っているけどな。俺らが聞き知っている限り、アジア、アフリカで日本人のことを良く言う奴は少な

だ。じゃあ、お前もモンキーとか、そんな陰口をきかれてんだぜ。このままどうしよう、そのうち、日本という国消えて無くなるかも知れねえぜ。だってよ、手前えの国に誇りが持たず、白人、なんて言われて喜んでるような国がさ、この先栄えてゆく筈ねえもんな」

Table of Income (収入) with columns for Item (科目) and Amount (金額). Items include Basic Asset Income, Business Income, etc.

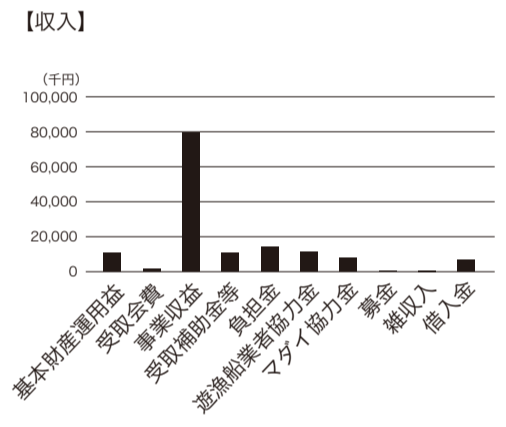
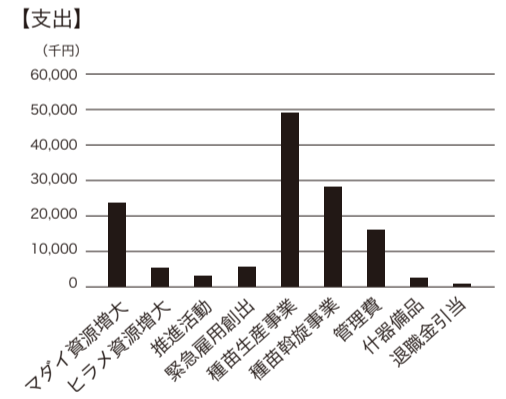


Table of Expenses (支出) with columns for Item (科目) and Amount (金額). Items include Mackerel Resource Increase, Promotion Activities, etc.



まぐろ千夜一夜 続 艦のオンチャン航海記 第16話 国棄て

「前号までのあらすじ：会社を飛び出し、義父の仕事の共同経営者に。そのGさんに一緒にのんびり暮らさないかと誘われる」 「僕はしばらくケープタウンに出張してただけだね。ご存知のとおり、あの国の人種差別は非道いもんと聞いていたんだが、いや、実際行ってみて驚いてしまったねえ。ホテル、レストラン、バスや公園まで白人専用があって、非白人と厳しく区別しているんだ。非白人というのは黒人、カラード(混血)、インド人、中国人、その他全ての有色人種さ。ところが我が日本人は違うんだ。日本人は白人という事で、白人と同じ扱いを受けるんだから、気分がいいよな」と如何にも得意満面なんだぜ。

あ、ついでにもう一つ、俺がもう一つ気になってたこと。それはGさんの国籍。「俺らかい、俺らあ、地球人さあ」Gさんのその返事が、未だに忘れられません。

マサバ資源回復の兆しか

伊豆諸島海域で漁場拡大
相模湾ではブリが豊漁に

今年一月から始まった伊豆諸島近海漁場でのサバもすくすく網漁業は、マサバの漁獲が顕著でしかも資源が多いためか漁場が拡大するなど、「資源回復の兆しか」という声がかかります。また、今年の相模湾ではブリが大漁になるといふ明るい話題もありました。



マサバ主体の水揚げ

その後もマサバの漁獲は続き、平成二十三年の千葉、神奈川、静岡県のサバたもすくすく網漁船によるマサバの漁獲の合計は二千五百五十八トン(二十二年は八百九十一ト)でした。今年になってもマサバの水揚げは続いています。

また、今年二月から三月にかけて相模湾で九千尾以上のブリの漁獲がありました。これは三十年ぶりだそうです。

アカモクの商品化に積極的な県下漁業者

二、三年前から神奈川県の新しい海藻資源として注目されたのがアカモクです。健康食品としても関心が高いことから県下各地の漁業者は、乾燥、冷凍などの商品開発に積極的に取り組んでいます。神奈川県漁連では、「アカモクのふりかけ」まで販売し始めています。

漁業者が生産を始めたアカモク商品を使い、寿司屋さんが軍艦巻きにして客に食べさせたり、県下沿岸各地の食堂では「あかもく丼」を提供する店が多くなっており、「ねばねばシャキシャキ」した食感が客から喜ばれているそうで、神奈川の名物になるかも知れません。

漁業者が生産を始めたアカモク商品を使い、寿司屋さんが軍艦巻きにして客に食べさせたり、県下沿岸各地の食堂では「あかもく丼」を提供する店が多くなっており、「ねばねばシャキシャキ」した食感が客から喜ばれているそうで、神奈川の名物になるかも知れません。

博しているそうです。このようにアカモクの商品化に積極的に取り組んだ漁業者の中には、アカモクの刻み加工処理のためミートチョッパーを導入する人も出てきました。

鎌倉漁協では新名産品「鎌倉のアカモク」をかながわブランドに認定してもらうように申請し、承認されました。アカモクは体に良いといわれるフコダインの含有量がメカブの3〜5倍で、ミネラルや食物繊維も多く含まれています。

第二回 神奈川県水産技術センター実績発表会

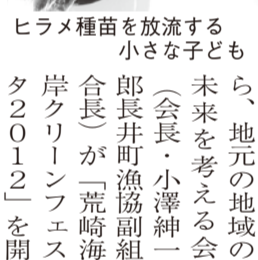


水技センター業績発表会

神奈川県水産技術センターは「第二回神奈川県水産技術センター実績発表会」を開きました。漁業団体幹部、市の担当職員、水産研究者など六十人が出席、冒頭、米山健所長は「センターでは、海・川・湖の漁業振興、漁場環境保護、普及活動などを行っており、その研究成果など

七つの発表が行われましたが、その中で当協会でも力を入れているトラフグの種苗放流などについてセンター栽培技術部の櫻井繁さんが「トラフグの栽培漁業について」と題してこれまでの取組を話しました。櫻井さんは「トラフグは小型種苗でも大量に放流すれば、翌年には水揚げ量が増えるという効果が考えられます」と説明しまし

た。この日は、午前9時から、地元地域の未来を考える会(会長・小澤紳一郎、副会長・荒崎海合長)が「荒崎海岸クリーンフェスタ2012」を開



ヒラメ種苗を放流する子ども

この日は、午前9時から、地元地域の未来を考える会(会長・小澤紳一郎、副会長・荒崎海合長)が「荒崎海岸クリーンフェスタ2012」を開

協会の種苗供給事業でヒラメ稚魚放流

日本釣振興会は五月十九日、当協会の種苗供給事業で、横須賀市長井町地先に五千尾のヒラメ種苗を放流しました。愛知県から活魚運搬車で運ばれてきた体長六〜七センチ

のヒラメ稚魚で、午前八時過ぎ、四千尾を小田和湾に放流したあと、千尾が荒崎海岸・なんやの浜で小さな子どもたちが放流しました。

放流に先立ち協会の今井利為専務は、「この種苗は今年一月に愛知県でふ化しこれまで育てられてきました。放流後一年で体長は三十七センチ、二年後には三十五〜四十七センチの大きさに育ちます。戻ってきてまた会いましょう」と声を掛けて放流して下さい」と話し、子どもたちは次々と放流台を使い放流しました。

放流は事業です。利益を上げない意味がありません。(例) 放流水揚げ額 120万円 - 経費 38万円 = 82万円

漁獲された数を放流数で割ると回収率と言う数値が求められます。漁獲された数を放流数で割ると回収率と言う数値が求められます。

また、回収したアワビの漁獲金額と種苗放流に要した経費を比較して下さい。



栄養満点弁当

厚生労働大臣賞を受賞したまぐろづくし & ちらし弁当

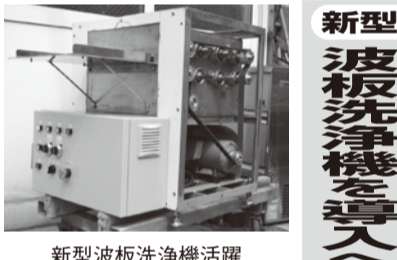
第十二回全国中学生創造ものづくり教育フェア「あなたのためのお弁当コンクール」全国大会で、横須賀市立長井中学校家政部の「まぐろづくし&ちらしの栄養満点弁当」が二位に入賞、厚生労働大臣賞を獲得しました。魚を使うのが条件だったので三崎のマグロを主食材に、マグロの子(卵)などの食材を活かした弁当でした。

さいばい漁業って何

アワビの料理 アワビの代表的な料理はなんと刺身です。クロアワビ、エゾアワビは身が硬く、コリコリとした食感を好む人に向いています。

放流の効果 放流したアワビがどのくらいの数、漁獲されたかを調べることは、放流事業を評価する上でどうしても必要です。

回収率 放流したアワビがどのくらいの数を漁獲されているかが種苗放流事業の成否を判断する基準となります。



新型波板洗浄機活躍

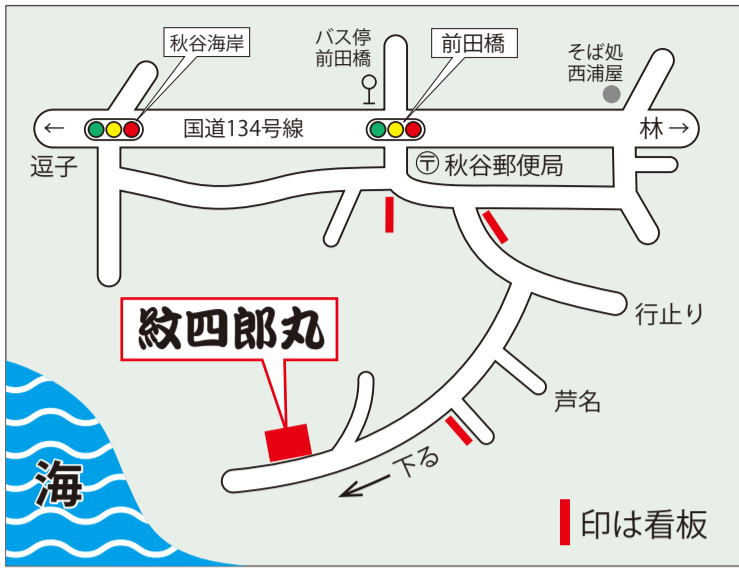
アワビ、サザエ、トコブシの種苗の幼生は、餌の珪藻を付着させた波板に定着させ三〜四ヶ月間飼育します。使用後、波板をきれいにするための機械が老朽化したため、協会では新しい洗浄機を導入しました。新型はコンパクトで部品の取り換えなどが簡単に行え、種苗生産の効率を上げられるものと期待しています。

省エネ・省スペースの新型波板洗浄機を導入

夏に氷の器に賽の目に切ったアワビを水水に浮かべた水貝は、こりこりとした食感を楽しめます。よく、水貝には貝殻を用いるとされていますが、クロアワビ、エゾアワビが使われています。

また、それぞれの種ごとに人工種苗の特徴である貝殻のグリーンマーク比率を求めます。これらの数値を使って、何年に放流したアワビが何個漁獲されたかが分かります。

また、回収したアワビの漁獲金額と種苗放流に要した経費を比較して下さい。



【アクセス】 徒歩だと逗子駅からバスで前田橋下車5分。葉山方面から車だと国道134号線を前田橋信号で右折、看板を確認しながら走り2~3分。
〒240-0105 横須賀市秋谷1-8-5
TEL046-856-8625

朝市・直販所めぐり シリーズ②⑥

自分で獲り生のほか釜揚げなど加工して販売する 横須賀市秋谷の紋四郎丸直販所

相模湾でシラスを獲り各種商品を加工、直販している紋四郎丸。獲れたその日だと食べられる生シラスも買えることが大人気です。「釜揚げ」「干し」のほか「しらす佃煮」も評判が良いそうです。

シラス船曳網漁船で出漁、獲れると直ちに帰港して家族ぐるみで生用のパック詰めから加工品の生産に取り掛かります。食塩以外の添加物は一切使わないこと、カルシウムなどが豊富な「健康食品」としても喜ばれています。



シラス直販所「紋四郎丸」

「生しらす」です。ご飯の上に乗せた「シラス丼」は絶品だし、そのままワサビ醤油で食べると酒のつまみにも最高です。また、「釜揚げしらす」は獲れたてを茹でたもので、ふわっとした柔らかなさで、口の中にシラスの旨味がひろがります。「干ししらす」は茹でてから實に広げ、天日干しした製品です。海を渡ってくる潮風がシラスのおいさを倍増させます。

このほか「しらす佃煮」「たたみいわし」、時期により「めざし」「煮干し」なども製造しており、来店か電話などでの注文を受け付けているそうです。



チャールズ皇太子と小山組会長(後列左から3人目)

横須賀市漁協の小山組会長は、英国のチャールズ皇太子殿下が設立した「二操一休」などの資源管理について説明し、会議の翌日、殿下にお会いすると「今後も頑張ってください」と励ましのお言葉をいただきました。

チャールズ皇太子殿下は二〇一〇年、漁業による食料の確保と生計の安定を提

小山組会長が英国に招待される

チャールズ皇太子から 励ましのお言葉

今年二月ロンドンを訪問、水産物の乱獲防止などを話し合う会議に出席しました。

供するため海洋プログラムを設立しました。三十年前から資源管理に取り組んできた組合の努力が評価され、会議に招待されました。



編集後記

協会は創立以来「さいばいニュース」を年四回発行し、神奈川の海の情報を提供してきました。しかし、財政状態が非常に厳しくなり年四回「さいばいニュース」を発行することが難しい状況になりました。



マダイ資源を増やしてと寄付

三浦市・松輪の棒面丸は1月、「ラブ!ラブ!」の表彰式を行いました。

マダイ2011棒面丸の表彰式を行いました。



カサゴ種苗を放流

しかし、栽培漁業情報を発信し続けなければならぬと、昨年度から年二回、一月と協会の決算が公表できる七月に発行させていただくことになりました。

「さいばいニュース」の内容をさらに充実したものにしたいです。で、何とぞよろしくお願

リビエラリゾートシーボニアマリーナ キスマスター参加費一部などを寄付



協会に寄付金贈呈

リビエラリゾートシーボニアマリーナは五月二十日、「キスマスター2012」を開催し、海を豊にしようと参加費の一部と同社の寄付を加えた八万一千円を協会に寄付してくれました。

同マスターには相模湾や東京湾から七十三艇のヨット、モーターボートが参加し、乗り組んだ四人一組の八十一チームがキス釣りをを行い、四匹の合計体長を競いました。優勝したのは四匹合計百八・一センチのキスを釣り上げたチームでした。

表彰式で同社の渡邊藤郎副社長は「今年には神奈川県も後援してくれました。海と水産資源を大切にする情報を今後も発信していきます」とあいさつし、寄付を受けた協会の今井利為専務は「協会の

棒面丸 マダイ種苗放流にと... 5万円寄付

五・九六の棒面丸を釣った東京都の小松慎治さんが優勝、受賞者を代表して当協会にマダイ種苗放流に役立ててと五万円を寄付してくれました。

同船は、七年前からマダイ釣りイベントを実施し、毎年寄付を続けています。寄付を受け取った協会の鈴木秀雄事務局長代行は「国、県からの補助がなくなりこのような寄付は非常にありがたいです」とお礼を述べ、同船の鈴木千春社長は「マダイ資源を増やすため栽培協会に寄付を続けたいのでよろしくお願します」とあいさつしました。

二十四年年度栽培漁業資源増大促進事業 県下の海にヒラメ種苗を放流

平成二十四年度栽培漁業資源増大促進事業で協会は七万尾のヒラメ種苗を神奈川県下の海に放流しました。これに加え相模湾水産振興事業団が三万尾、漁協なども種苗を購入して放流しました。

平塚市漁協は、地元の小学生在遊漁船に乗りヒラメ種苗を放流しました。放流に参加したのは平塚市立港小学校の五年生です。後藤藤平平塚市漁協組合長は船上での注意などを話し、協会の今井利為専務はヒラメが生まれてから大きくなるまでを話しました。このあと生徒は救命胴衣を付け、遊漁船四隻に分乗して沖に出て種苗を放流、設置されている定置網などを見て回りました。

でも、体長約七センチに育った七百五十尾のカサゴ種苗を「大きくなって戻ってきて」と声を掛けながら放流しました。

遊漁船業の人たちは自分たちが卒業し、また自分の子どもたちが通う学校なので、社会科教育に協力しようと六年前から放流会を実施しています。放流の前、協会の今井利為専務は、カサゴ種苗を説明し「放流したカサゴの子どもは二、三年で食べられる大きさに育ちます」と話しました。